

平成28年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

横浜市能見台地域ケアプラザ

2 事業計画

地域の現状と課題について

能見台地域ケアプラザのエリアは、4地区連合にまたがっており、広い地域となっています。28年度は、包括支援センターの人員増強により、各地区へのケアプラザとしての機能を一層強化するとともに、4地区をつなぐ役割をケアプラザが担い、各地区の情報交換を促進し地域の福祉の向上を図りました。

また、富岡西・能見台地区では、駅前商店街、住宅地、マンション群など混在する地域特性から、全体的な動きがとりにくいという課題がありますので、個々の地域にあったきめの細かい支援を行いました。

能見台地区は、若い担い手が多い活動が活発な地域で、施設の利用も最も多い地区であるため、地区の活力をいかして引き続き地区の皆さんの自主活動を支援していきました。将来の高齢化が課題であるため、エリア内での情報共有を促進して、来るべき高齢化に備えることについて支援をしました。

金沢東部地区については、地区社会福祉協議会の活動が熱心であり、ケアプラザとしてはその取り組みを他の地区に伝えることにより、相互の相乗効果を期待した支援を行い、ケアプラザの距離が課題となっておりますが、ケアプラザを利用しやすいよう協力をしました。

金沢中部地区は、一部が能見台ケアプラザのエリアとなっており、地域活動に熱心な地域です。泥亀ケアプラザとともに、地域支援チームの一員として、支援をしていきました。他の地区同様に担い手の高齢化が課題となっておりますが、他地区の取り組みを紹介するなど、支援をしました。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

建設から16年目になり、施設全般に老朽化が進みました。28年度は調理室のガスの点火ができなくなり、業務用テーブルガスコンロを交換いたしました。また、長期的な光熱費減を考え、施設の半分程度にあたる蛍光灯126本、電球35個の照明をLED化いたしました。

引き続き地区センターと協力して、順次施設の不具合を点検して、全体の施設の適正管理を図りました。

イ 効率的な運営への取組について

済生会コンプライアンスに基づいて、社会福祉法人として高い倫理性をもって、効率的運営を図りました。特に済生会の強みである組織のスケールメリットを生かして、さまざまな情報を共有化することにより、相互の効率的試みについて情報を共有して、効率化を図り、そのため各施設同士の交流会を実施し具体的な効率化へ向けての事例検討を行いました。

ウ 苦情受付体制について

苦情処理体制として、所長が苦情解決責任者、各部門管理者責任者が苦情受付担当者となっています。

苦情の解決に至らない場合は、法人委嘱の苦情解決のための第三者委員に報告し、助言などをいただくなど、迅速かつ適正な苦情解決に取り組みました。また苦情等の情報を朝礼や所内会議において共有化し、利用者の立場に立った運営を行いました。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

地区センターと共同して合同消防訓練を年2回実施しました。28年度は、通常の避難誘導訓練に加えて、消防署と協議して、煙体験訓練の他、AEDを使用したより効果のある訓練をいたしました。

また、区と協議してまとめた特別避難場所マニュアルに基づき、29年2月15日非常用発電機の稼働訓練を行い、来るべき災害に備えました。

なお、防犯カメラ4台を適宜モニターして防犯対策にも意を尽くしました。

オ 事故防止への取組について

過去の個人情報漏えい事故発生を教訓に、マニュアルの見直しを行うとともに、職員研修をさらに充実させて個人情報保護を徹底しました。

事故防止マニュアルにより介護事故、送迎事故、感染症事故、情報漏えい事故などを防止する体制をとって対処します。また、朝礼で事故防止を常時喚起し、日常的に事故防止の意識向上を図るとともに、さまざまな会議でヒアリハット事例を題材とした事故防止策の意識向上に努めました。

なおリスクマネジメント研修に参加するなど外部研修の情報も取り入れました。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

個人情報保護については、個人情報保護規定により、所長が統括責任者、各部門管理者責任者が委員となり、毎月コンプライアンス委員会の中で個人情報保護について検討する体制をとり、そのなかでは事例検討などを行い徹底しました。

全員研修において一人一人に徹底するとともに、人権尊重が個人情報保護の基調にあることから、同時に人権研修を行い理解の深度を高めていきました。また、朝礼、管理者会議、職員会議にて常に注意喚起を行いました。

なお、済生会コンプライアンス研修をおこない、組織ぐるみで個人情報保護を含め人権尊重、法令遵守の組織風土を構築しました。

キ 情報公開への取組について

能見台ケアプラザのホームページなどにおいて、色々な情報を公開しました。

また、情報ラウンジでの開架で、ケアプラザの事業および責任者の氏名を掲示するとともに、苦情解決のための責任者受付担当者氏名を掲示しました。さらに苦情解決のための第三者委員の制度を開架し周知しました。

その他、法人の理事会議事録、区への事業実績報告、評価、第三者評価などを開架しました。

ク 人権啓発への取組について

職員の全体研修において横浜市人権啓発基本計画等をテキストとして使用し、人権に根差した職務執行をすることを徹底しました。

個人情報保護などの人権関係については、窓口はもとより、ケアプラザのあらゆる活動において、ケアプラザが遵守することはもとより、地域に対しても人権尊重について啓発を行いました。

ケ 環境等への配慮及び取組について

公共施設として良好な環境を維持するため、職員による毎日の清掃のほか、委託による毎月1回の定期清掃。トイレ・廊下は委託による毎日の日常清掃を行いました。

外周や緑の維持についても、職員による毎日の清掃に加えて、年3回の植栽の剪定や除草を行いました。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

管理者兼看護師 1人
社会福祉士 2人
主任ケアマネジャー 1人
ケアマネジャー（非常勤）1人（介護予防プランナー）

《目標》

- ・高齢者が、住み慣れた地域でできる限り自分らしく過ごせるように、個別、集団への保健指導を行い、介護予防の普及強化に努めました。
- ・高齢者ひとりひとりのできる力に着目し、実現可能で目標指向型のケアプランを作成しました。
- ・日常生活支援総合事業への移行を踏まえ、利用者が日常生活圏域で利用できる様々な社会資源についても情報提供し、インフォーマルサービスを充実させたケアプランを提案しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・インフォーマルサービスとして、包括自主事業の体操教室を月3回開催しました。毎回25名を超える参加者で賑わいました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
198	191	198	192	194	192
10月	11月	12月	1月	2月	3月
199	199	209	216	220	224

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・職員は、常勤3名、非常勤2名の構成です。常勤の1名は主任介護支援専門員で2名は福祉住環境コーディネーター、1名は看護師、1名はデイサービス経験者です
- ・勤務に於いては、シフト制を導入しています。
- ・介護支援専門員の育成については、さまざまな研修に参加し、質の向上に努めます
- ・利用者を取り巻く関連の情報発信をすることで、今後の生活支援につなげました。

《目標》

- ・利用者が住み慣れた場所で、自分らしく自立した生活、質の高い暮らしができる様に支援しました。
- ・利用者本意のサービスが提供出来る様に公正中立を守り、保健、医療、福祉、地域家族の諸サービスを統合し、担当者会議を開催しサービスの質の向上と利用者の意向が十分に反映されたプラン作りを心がけます。
- ・アンケートの結果を踏まえて、住まいに関すること、身元保証などについても情報提供しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・職員全員が認知症サポーターです。
- ・利用者様、家族様に、寄り添う支援を心がけました。
- ・認知症の方も安心して暮らせるよう、地域に働きかけました。
- ・24時間対応に努めています。
- ・笑顔で明るい対応を心がけました。

《利用者実績》 予防は月平均、33人でした。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
155	153	156	149	156	151
10月	11月	12月	1月	2月	3月
153	150	149	144	142	139

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 入浴
- 送迎
- 食事

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

1割負担分	2割負担
(要介護1) 703円	1,406円
(要介護2) 831円	1,662円
(要介護3) 963円	1,925円
(要介護4) 1,095円	2,189円
(要介護5) 1,226円	2,453円
●入浴	1割負担 54円/回・2割負担 107円/回
●サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	1割負担 6円/回・2割負担 13円/回
●介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	月額総単位の4.0%
●食費負担 750円	

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 9:30 ~ 16:35

《職員体制》

- | | | | |
|------------|-----|--------|-----|
| ・生活相談員（常勤） | 3名 | ・介護福祉士 | 10名 |
| ・介護職（非常勤） | 21名 | ・看護職 | 9名 |
| ・調理員 | 5名 | ・ドライバー | 9名 |
- 勤務体制はシフト制とします。

《目標》

利用者の意欲・能力を維持・向上させ、その人らしく生活していけることを支援するようにサービスを提供します。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・利用者の生きがい、楽しみとなる趣味活動、レクリエーションを提供します。
- ・理学療法士、栄養士による身近で役立つテーマについての講話を定期的に関催します。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
771	766	746	776	736	755
10月	11月	12月	1月	2月	3月
791	760	726	711	718	800

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 入浴、送迎、食事
- 運動器機能向上

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

●	1割負担分	2割負担分	サービス提供体制強化加算
(要支援1)	1,766円	3,531円	Ⅱ-1 24円/回
(要支援2) 週1回利用	1,766円	3,531円	Ⅱ-1 24円/回
週2回利用	3,620円	7,240円	Ⅱ-2 48円/回
●介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	月額総単位の4.0%		
●食費負担	750円		

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 9:30 ~ 16:35

《職員体制》

- | | | | |
|------------|-----|--------|-----|
| ・生活相談員（常勤） | 3名 | ・介護福祉士 | 10名 |
| ・介護職（非常勤） | 21名 | ・看護職 | 9名 |
| ・調理員 | 5名 | ・ドライバー | 9名 |

勤務体制はシフト制とします。

《目標》

利用者の意欲・能力を維持・向上させ、その人らしく生活していけることを支援するようにサービスを提供しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・利用者の生きがい、楽しみとなる趣味活動、レクリエーションを提供します。
- ・理学療法士、栄養士による身近で役立つテーマについての講話を定期的を開催します。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
18	19	23	21	20	20
10月	11月	12月	1月	2月	3月
21	20	21	22	22	26

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

高齢者、こども、障害分野の多様な相談に対応できる場としてケアプラザが機能できるよう、月1回の管理者会議、職員会議において常に情報の共有をはかり意識を高めていきました。また、区、社協、各分野に長けたボランティアからも情報を得ることで相談窓口としての資質の向上につとめ相談者に有益な情報を提供できるよう努力いたしました。自主事業、関東学院大学や横浜市立大学への出張講座においてケアプラザの機能、相談窓口の存在周知をすると共に、地域のキーパーソン、福祉活動団体の協力も得て、ケアプラザの存在の周知を図りました。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携

消費者被害に遭われた自宅にこもりがちで見守りが必要な高齢者に、地域交流主催の高齢者分野の事業を案内（音読サロン・囲碁・体操教室）するなど、必要な方を定期的に見守れるよう連携をしました。

毎朝の朝礼、毎月行われる所内会議により双方の情報を共有するとともに「地区支援記録」を活用し、記録を残し連携を図りました。地域活動交流にて高齢者支援事業を企画する際には包括3職種への相談、適切な情報を得て実施しました。地域活動交流、包括支援センター共催で行うサロン、にぎやか亭では、地域包括支援センターが把握している独居高齢者に声かけをすることで、それぞれ特性を生かして実施できました。

地域支えあい連絡会では男性の地域参加と新しい担い手の育成をテーマに連携をはかり開催し、趣味道楽を話し合う事業につなげました。

3 職員体制・育成

生活支援コーディネーター及び包括支援センターの加配置人員は、規定通り4月1日に配置することができ、包括支援センターの業務充実と生活支援体制の構築ができたことは、ケアプラザとしての機能の充実が図れたと考えます。また、地域活動交流コーディネーターが産休に入ることとなったため、サブコーディネーターを昇格させ、内部異動によって、従来あった外部との調整不足がないように万全を期しました。

職員育成については、ケアプラザ職員の全体研修において、個人情報保護、人権、事故防止などコンプライアンスを徹底するとともに、各部門において、区社協との連携のもとに、専門研修などを実施しました。

研修については、報告書を作成、所内で共有化し、効率的に活用しました。

なお公の施設としての、自覚を持つよう徹底しました。

4 地域福祉のネットワーク構築

地域支えあい連絡会では、男性の地域参加が今後の高齢化社会での、キーワードになるものとして、テーマ設定をして、各地区の情報交換を行いました。また第1回を地域ケア会議と位置付けて実施しました。第2回には、男性の地域活動をテーマに、健康生きがいがづくりアドバイザー長橋氏を講師に招き、同時に地域で活動している人の報告も行いました。第3回は生活支援体制の構築のために、協議体として合わせて実施しました。

学校と福祉施設の連絡会においては、富岡地域ケアプラザと共催し、関係機関の担当者同士の顔の見える関係づくりと情報交換ができました。

その他施設の運営推進会議に委員としての出席など関係機関の会議に出席し、ネットワークづくりに貢献しました。

子育て支援連絡会は区役所、区社協と事前に打ち合わせをもち、5月、11月と2回実施し、各地域の子育てサロンの様子、最近の子育て世代の傾向などを話しあい相

互の活動に生かしてもらえよう情報交換しました。

5 区行政との協働

第3期地域福祉保健計画の初年度に当たり、地域支援チームの一員として、4連合のチーム会議、地区推進連絡会に出席して、地域の課題を共有しました。また、生活支援体制の整備において、区の研修等に積極的に参加しました。

ボランティア育成講座を、区、社協、9ケアプラザが連携して横浜市立大学と関東学院大学において実施し、ボランティア育成に努めました。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

子育て施設や地域の子育て広場、サークル等をまとめた資料を冊子にまとめファイルを新たに作成し地域の方に閲覧できるよう情報ラックに設置いたしました。

区や区社協からの様々な情報の配架物は内容別に分類しオレンジ色の見出しをつけ、分かりやすいように工夫いたしました。また廊下の壁には行政からの情報や、ボランティア団体の活動紹介を掲示し、来館者へ情報を発信いたしました。

地域支え合い連絡会を3回開催し、第3回目では生活支援体制整備事業の協議体としての役割も兼ね、男性の地域活動への参加について意見交換をしました。講師や、実際の活動者からの講座も開き、地域での活動に生かせるよう情報収集、情報提供をいたしました。

子育て支援連絡会も定期的に3回開催し、区、区社協、金沢区子育て支援拠点、ケアプラザからの有益な情報提供と地域情報の共有化を図りました。

貸し館利用団体交流会（ボランティア団体交流会）、利用者アンケート調査等の実施で、ケアプラザへの意見・要望・提案等を受け、事業に生かしました。

収集した情報や提供した情報等を、地域包括支援センターと共有している『地区支援記録』等のツールを利用してケアプラザ内で共有し振り返りを行うことで、職員全体の情報収集に生かしました。

ケアプラザの広報紙「なでしこ」は2ヶ月ごとに発行し、ケアプラザで行われる事業の紹介の他、連絡会で得た地域情報の提供に努めました。また事業チラシやケアプラザのホームページ、SNSも活用し多世代に対応できる情報の発信をいたしました。区の広報紙よこはま、区ホームページ等さまざまな媒体も利用して区民への幅広い情報の周知を図りました。

その他、地域の施設や商業施設にも出向き、事業チラシやケアプラザの紹介チラシの掲示、配布を依頼すると共に、地域の情報交換に努め相互の協力体制を築きました。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

地域の方に貸し室の空き状況がすぐわかるよう、エントランスに空室状況を掲示して情報の提供と利用促進を図り、様々な連絡会や事業においても部屋の利用ができる旨を告知しました。ホームページで部屋の写真と利用可能人数を表示し福祉保健活動団体、地域団体が貸し室を利用ができる旨表記しました。

多目的ホールについては利用率が高く希望日がとりにくいというご意見を踏まえ、構成員が若年世代の多い団体には、直接ご相談をし、夜間での利用を促し夜間利用率を昨年より約10%アップさせました。

部屋の利用申込書は、担当者、コーディネーター、所長の決裁の後、再度ファイリングを担当職員がチェックを行い、ダブルブッキング等々の誤りがなく気持ちよく利用できるよう万全をつくしました。常に部屋の換気や清掃を職員がすすんで行い利用しやすい環境を整えていました。

3 自主企画事業

各事業について地域、他活動団体との連携・共催を意識し企画しました。事業実施の際はケアプラザの理解を深めるため周知、啓発を行いました。事業の目標目的について部門内で共有を行うとともに、包括支援、居宅支援、デイから情報を得て、事業に反映させ成果を報告しました。ケアプラザから距離のある地域には、生活支援コーディネーターとともに出向き、地域の取り組みを確認しニーズや課題の収集に努めました。

・高齢者支援において、包括支援より独居高齢者へ「音読サロン」を薦めてもらうなど、連携をとりました。「あおぞらサロン」はグループホームの方に参加いただいております相互に協力しました。年に2回の食事会「にぎやか亭」では民生児童委員に協力いただき、高齢の方へ紹介を行い、また一人で参加されている方に積極的に声かけし、見守り事業につなげました。他、健康サポート、健康麻雀、パソコンなど、運動機能の維持向上や認知症の予防を考えた事業を実施しました。

・子育て支援においては、金沢区子育て拠点である「とことこ」と共催し静と動の企画を意識し読み聞かせ講座、並びに初めて親子運動会を実施しました。3月には子育て世代のための防災講座を開催しました。また地域の民児協や栄養士と共催して離乳食講座を実施、父親参加型の企画を成功させました。月に2回の「にこにこ会」との子育て広場も地域に根付き参加者が定着しました。楽しい企画とヘルスメイトなどの食育講座も兼ねた企画を実施するなど工夫をして新規参加者の増加にも力を入れました。区役所との共催事業「3歳からの子育て講座」や子育て支援連絡会などではより多くの地域の方に参加の声かけし情報の共有を図りました。

・障害児・者支援については学齢障害児、青年期障害者の余暇支援事業である「フリーティード」「ハッピーポップ」を毎月実施、毎回メンバーへの電話連絡にて時間や場所の再確認をとるとともに、保護者とも連携し信頼を得ることを考慮いたしました。障害児の保護者のためのサロン「スマイルカフェ」では南部療育センターへの周知活動の協力をすることで自立化に向け支援いたしました。

・世代間・地域交流については老若男女参加できる「囲碁サロン」「そば打ち教室」を実施。地域のボランティア団体、地区センターと協働した「合同祭」では新たな団体の出店協力もできました。「医療講座」は地域病院と連携して3月に実施しました。

・ボランティア関連事業では配食サービスボランティアに向け、ノロウイルスや感染症の防止に向け衛生講習会を実施しました。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

日頃より、地域での会議、連絡会にてボランティアの高齢化や担い手不足であることを伝え、地域の協力を得られるよう意識しております。

新たな担い手の育成として金沢区子育て支援拠点「とことこ」と共催し、子育て世代の若い世代を配食サービス団体につなぎました。又、区内9ヶケアプラザ、区社協、区役所と共催で、関東学院大学、横浜市立大学に出向き大学生対象のボランティア養成講座を実施しました。その結果、109名の学生が講座に参加し、ボランティア活動への関心興味を引き出し、各ケアプラザでの障害児・者の余暇支援事業に17名、のべ24件の学生ボランティアとして参加協力を得ることができました。また、活動後、振り返りの会も設け、今後の活動につながるよう努めました。

地域の施設、自治会、商店からのボランティア派遣要請を受け、当ケアプラザの登録ボランティアのコーディネートを行うとともに、要請内容に該当するボランティアがみつからない時は、区社協のボランティアセンターへ繋ぎ連携して対応しました。

当ケアプラザを利用している、音楽活動を主とした福祉保健協力団体である、アンサンブルドルチェ、池谷茂富社中、等々には「あおぞらサロン」での発表の機会などを作り、また様々な制作活動を主とした福祉保健協力団体である金沢おもしろ科学には障害児・者の事業に協力いただき、それぞれ活動の場を設けることで、モチベーションを上げてもらい相互に有益なものになるようコーディネートいたしました。

また1月に実施のボランティア連絡会では各ボランティアの活動内容の紹介をして

もらい、それぞれの交流、理解を図るとともに相互の協力体制を築けるよう考慮いたしました。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

- ・ エリアの銀行、交番、新聞配達所、病院、薬局、支援事業者など主要機関に出向き地域包括支援センターの周知を図ると共に、地域で支援が必要な方を共に支える関係を目指し、今年度はイトーヨーカドー能見台店、西友、京急ストア、片吹郵便局を訪問し、地域包括支援センター職員の写真入りチラシを活用し気軽に相談できる体制づくりに努めました。昨年度に引き続き、薬局からの相談が増えたこと、お店からイベントのボランティア依頼につながるなど、包括支援センターのみならずケアプラザとしての機能周知につながる成果がありました。
- ・ 介護保険サービスのみならず、インフォーマルサービスや見守り支援、自主事業など様々な社会資源を柔軟に活用し、継続的な支援を実施しました。特に、自主事業の体操教室へは、元気なうちから介護予防を意識し参加する方が多くつながり定員を超える申込み者には地域の体操教室への案内につなぐことができました。その結果を踏まえ、生活支援コーディネーターと連携し地域の体操教室を含む趣味活動、サロンの把握に取り組み、生活支援コーディネーターが作成したマップを実用化するまでの成果につなげることができました。
- ・ 地域のイベントやサロン、体操教室等に出向き、包括支援センターの相談機能について広く普及しました。合同祭では健康チェックを行なうと共に多く来館者の方に地域包括支援センターの職員の顔を知ってもらい保健活動推進員の方とも連携・協力ができました。

地域包括支援ネットワークの構築

- ・ 地域包括ケアシステムの構築を目指し、地域住民を対象としたネットワーク構築として、様々な形を通して連携を強化しました。
民生委員とケアマネジャーを初めとする福祉関係者、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの顔の見える関係を目指し、2月に「住み慣れた地域で暮らすために」を開催しました。在宅訪問介護事業所の代表の方にも参加していただき、地域支援事業に関する説明や地域包括ケアシステムの基盤作りについても触れました。このことは民生委員の方の活動意欲にもつながり、改選後の民生委員の方からも気軽に相談していただく環境ができました。
- ・ 個別（3回）及びケアプラザエリアの地域ケア会議（1回）を開催し、多職種連携を図りました。
ケアプラザエリアの地域ケア会議では、男性の地域参加をテーマとし、各エリアの現状を話し合い、地域参加に詳しい講師を招き、地域の具体的な困りごとのを話し合う機会を持つことができました。講演会には、活動の主体となっている男性に声をかけ、活動の参考にしていただいたことで、包括支援センターが後方支援を行いながら体操教室が立ち上がるという成果がありました。
引き続き生活支援コーディネーター、地域交流、関係機関との連携を行い、広いエリアの情報（趣味活動・サロン・体操教室等）の把握を随時行い、地域住民と社会

資源のつながりを担うケアプラザの役割について意識することができました。

- ・ エリアの主要スーパー（西友・イトーヨーカドー能見台店、京急能見台店）に出向き、地域包括支援センターの役割を周知すると共に、地域の高齢者を共に支援する関係を築きました。また、所員全員が新しい制度・相談窓口の理解に努め、横浜市基幹相談支援センター2件（障害）、自立相談支援事業2件（区・生活支援課）を活用し、幅広い年齢層の方にこれまでつなぐことのできない制度の狭間にある相談内容についても専門機関につなげることができました。
- ・ 地域包括ケアシステムのイメージを具体化し地域の方に伝えるため、下記3点の講演会を行いました。
 - ① 地域の開業医（河本クリニック）を講師とし、在宅医療について講演会を行ない、支援事業者・在宅医療相談室・医師等が連携し在宅で最期を迎えるという一つのテーマについて考えました。（3/25「最期まで住み慣れた自宅で～在宅での看取り～」）
 - ② 地域包括支援センターの機能周知として、病院退院から在宅介護を受けるまでの相談事例を寸劇で行いました。また支援事業者を招いて訪問入浴の実演を行いました。（2/25「もしも介護が必要になったら～住み慣れた地域で暮らしたい～」）
 - ③ 高齢者向けの住宅に視点を当て、横浜市住宅供給公社の方により講演会を行いました。切れ目なく在宅支援が行えるよう連携の強化につながりました。（1/26「高齢者のための住まいの上手な探し方」）

実態把握

- ・ 広いエリアを把握するためにも生活支援コーディネーターと連携し、民児協や地域のサロン、体操教室、町内会等に出向き、地域の資源・ニーズ把握を行いました。その結果、「自立と介護保険制度利用の狭間にある方の社会参加の場所についてまとめること」「活動のない場所への後方支援を見える化」するためにも、まずは「サロン・趣味活動・体操教室の把握」を優先とし取り組むことで生活支援コーディネーターがマップを作成し、実際の相談時に活用することができました。
- ・ 民生委員や地域住民から、支援が必要な高齢者の情報提供をいただけるよう、日頃から顔の見える関係を築くことで、窓口に来られ相談される民生委員の方が増えました。

2 権利擁護

権利擁護

- ・ シリーズ講演会終活セミナー（全5回①エンディングノートの書き方 11/26②成年後見制度 12/24③お墓・遺言・相続 1/21④地域包括支援センター寸劇 2/25⑤在宅医療について 3/25）を開催し、権利擁護の視点をちりばめ、高齢期に訪れる認知症やそれら介護に伴う制度や社会資源など情報を提供しました。
- ・ 行政書士、司法書士と連携し、「成年後見制度・遺言・相続個別相談会」を行い、15件の相談につながりました。（6/11、9/10、12/10、1/14、2/18）公正証書遺言に関する相談が一番多く（7件）、ついで成年後見制度（5件）その他（3件）でした。
- ・ 区内で急増する消費者被害について、警察・区役所・区内包括支援センターの情報をメールなどの媒体を利用して迅速にキャッチし、地域住民に手口や予防方法についてサロンや事業を通して具体的に情報提供することで被害防止に努めました。（計10回 238人）

高齢者虐待

- ・介護者の方が気軽に日頃の介護について情報交換を行なうことができるよう、介護者の会を毎月開催しました。(偶数月：おしゃべりの会、奇数月：各種セミナー)
- ・緊急性の判断や虐待のサインを見逃さず、区と随時連携し対応しました。
- ・地域包括支援センターが虐待相談窓口であることをケアプラザの広報誌などを通して全戸回覧により地域住民に広く周知を図りました。また、相談者や通報者の不安を取り除き、迅速に関係機関との連携を行い対応しました。
- ・区内新人ケアマネジャー研修にて、高齢者虐待を含む権利擁護について講義し、高齢者に関わる支援関係者に、虐待に関する予防の視点を持てるよう周知しました。

認知症

- ・キャラバンメイトが訪問介護事業所での認知症サポーター養成講座を開催するにあたって、資料の準備や講話の構成などを一緒に考え、キャラバンメイト自身が開催できるよう後方支援を行いました。
- ・認知症予防として効果的なスリーA 講座を地域のミニデイサービスの利用者対象で1回、ボランティア対象のリーダー養成講座として3回、コグニサイズをケアプラザで2回、地域（能見台1、2丁目町内会館、片吹自治会館）で2回開催しました。
- ・富岡地域包括支援センターと共催で「認知症と老年性うつ」の講演会を開催し、症状の理解や、地域で見守ることの重要性について地域住民に考えていただく機会を持ちました。定員50名を上回る参加申込みがあり、大盛況となりました。
- ・認知症家族介護者が、互いに情報共有し、専門職による相談支援が継続して受けられる場として、介護者の会をセミナーとお喋りの会を交互に、毎月1回開催しました。
- ・さくら茶屋にししばの認知症カフェ（さくらカフェオレンジデー1回/月）に区と協働で参加し、認知症当事者、家族への支援、活動を担うボランティアへの後方支援を行いました。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

高齢者一人ひとりのできる力に着目し、実現可能で目標思考型のケアプランを作成しました。介護予防・日常生活支援総合事業への移行に伴い、委託事業者、利用者へ順次個別に説明を行いました。生活支援については利用者の身体的、社会的背景に応じて、インフォーマルサービスに切り替えるなど、制度に則ったケアプランに変更していきました。個々のケアプランに、社会資源の活用を導入できるよう、委託事業者へも情報提供し、ケアプランに反映できるよう提案しました。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・ケアプラザ・包括支援センターの役割・周知のために、地域住民を対象とした出張講演会・相談会等、情報提供を行い地域住民の意識向上に努めました。また、講演会を開催し、地域包括支援センターと地域住民が対話でき、在宅での生活がイメージできる会を開催しました。
- ・4地区民児協に参加し、随時情報提供を行い連携が取りやすい関係を構築しました。
- ・民生委員改選を考慮し、ケアマネジャーを始めとする地域の様々な福祉機関との勉強会・情報交換会を開催。連携が取りやすいネットワーク体制の構築に努めました。
- ・エリア内のグループホームが地域の中で生活する事を考慮し、地域と交流する機会が増えるよう支援しました。

医療・介護の連携推進支援

- ・区内・近隣の総合病院 MSW との連絡会を開催し、相談者・ケアマネジャーへの支援が円滑に行える体制を発展させました。
- ・金沢区薬剤師会とケアマネジャー共催で、連絡会・勉強会を開催し日常業務に相互に連携が取れるよう基盤構築・発展に努めました。
- ・地域の薬局に順次訪問し、薬剤師からの提案・相談を把握すると同時に包括・ケアマネジャーへの協力・理解を依頼しました。
- ・福祉と地域医療の連携を目指し、北部ブロックの訪問診療医・訪問看護師・薬剤師とケアマネジャー・包括のネットワーク会議を開催し「認知症における課題」について課題抽出を行い具体的な連携方法を検討しました。
- ・医療連携の相談窓口として三師会医療相談室と研修、会議等相互に協力体制を取りました。

ケアマネジャー支援

- ・金沢区内の地域包括支援センター・主任ケアマネジャーの共催で新任ケアマネジャーの研修を3回、自立支援を目的としたケアマネジメントが行われるよう事例検討会を2回実施しました。
- ・北部ブロック主任ケアマネジャーの共催でケアマネジャーのフリーな相談場所として「ケアマネカフェ」を2回開催しました。
- ・上記研修等で業務における課題抽出を行い、主任ケアマネジャーネットワークにて課題解決する体制を作りました。
- ・区内ケアマネジャーのレベルアップ・事業所体制支援の強化を目指し、主任ケアマネジャーネットワークを立ち上げ、事業所を越えた研修・情報交換会を実施しました。
- ・区内包括三職種共催で、介護予防（総合事業）・制度改正に関する研修を実施し、自立支援について認識できるよう努めました。
- ・ケアマネジャーのケアマネジメントの実践力を高める為、地域ケア会議を3回開催しました。地域に関与する諸問題・課題を抽出し、チームで課題解決するべく対応しました。特に医療に関する課題は北部医療ネットワークにつなぎ検討しました。
- ・個別相談・ケアプランの立て方に関しては随時対応しました。
- ・新任ケアマネジャーの担当者会議、処遇困難ケースの同行訪問は随時対応しました。
- ・ケアマネ倶楽部の研修支援として企画段階から参加し効果的に開催できるよう支援しています。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

- ・地域の様々な機関への訪問を継続し、包括支援センターの機能についての案内を行いました。
- ・地域課題である「見守り支援」について地域ケア会議（包括エリア）を開催。民生委員と福祉関係者の情報交換会や様々なネットワーク会議において周知・検討を継続する事により意識の継続を図りました。
- ・北部医療ネットワークを継続的に開催し、地域の医療課題に取り組み、各々のケースに反映できるよう具体的な提案・課題解決に努めました。

介護予防事業

介護予防事業

- ・高齢者の健康づくり、居場所づくり、仲間づくりの場として、月3回の体操教室を開催しました。講師と相談し、後半は認知症予防に効果のあるコグニサイズを取り入れるなど、対象者に合わせたプログラム構成を考えて実施しました。毎回25名を超える参加者で賑わい、参加者同士の絆も深まりました。
- ・地域活動交流と連携し、高齢者の囲碁サロン、麻雀、パソコン教室などは、介護予防に資する活動として高齢者に案内しました。
- ・地域の既存のサロンや体操教室を巡回し、介護予防の講話、普及啓発を行いました。
- ・片吹自治会館、能見台1、2丁目町内会館ではコグニサイズ、ビーコンヒル友愛サロンでは認知症予防スクエアステップ講座を3回、ゆうわ会ふれあい広場ではスリーA講座を実施しました。また、ケアプラザでは、筋トレエクササイズを2回、コグニサイズを2回、腰痛予防体操を2回、口腔ケア講座、栄養講座を各1回開催しました。概ね月1回以上介護予防事業を実施することで、地域の高齢者やボランティアが介護予防に取り組む機会を増やし、地域活動の中でも介護予防に資する活動が継続して行えるよう後方支援を行いました。

生活支援体制整備事業

ニーズ・資源の把握・分析、資源情報リストの作成

- ・地域活動交流・地域包括支援センターの情報をもとに地域資源であるサロンや体操教室などシニアの集う場に出向き、生活支援体制整備事業の概要説明あわせ地域の情報収集を行いました。集めた情報をもとに資源情報リスト作成に着手しました。
- ・金沢東部地区では地域の活動に男性の参加率が低いという現状を踏まえ男性専用の体操教室の立ち上げを行うにあたり、地域保健福祉計画第2分科会の打ち合わせから参加し講師調整やイベント開催を実施しました。10月よりメンズエクササイズとしてスタートし、その後も地域の担い手と連携し対象者への周知を行いました。

圏域レベルの協議帯の設置・開催

- ・地域支えあい連絡会では男性の地域参加が今後の高齢化社会でのキーワードになるものとテーマを設定し、各地区の情報交換を行いました。連絡会第2回では男性の地域活動をテーマに健康生きがづくりアドバイザー長橋氏を講師に招き、同時に地域で活動している男性からの報告も行いました。連絡会の構成員として地域活動に介入している男性にもお声かけし参加いただいたことで、その後能見台6丁目ではハマロードサポーターも立ち上がり、金沢東部地区ではメンズエクササイズの活動にもつながりました。第3回は協議体とあわせて実施し、各地域の現状報告・情報交換を行い、地域活動が活発に行われるよう支援しました。

圏域レベルの目標・取組事項の設定

- ・地域活動交流・地域包括支援センターの情報をもとに地域資源であるサロンや体操教室などシニアの集う場に出向き、地域の情報収集し資源情報リスト作成に着手しました。
- ・地域ケア会議、区・包括定例会、地域支えあい連絡会等活用し、地域の現状や課題について話し合いを行いました。

具体的な取組事項への着手

- ・今年度は関係する事業・団体などが実施する活動に足を運び、まずは関係づくりに努めました。地域づくり塾かなざわに参加された内容を地域で活用されている金沢東部地区第3期地域福祉保健計画第5分科会にも出席し後方支援しました。
- ・所内では包括ミーティング(月1回)、職員会議(月1回)、地域ケア会議をはじめ、包括3職種・地域活動交流コーディネーターと日常の動きを報告しあい連携を図りました。

その他

平成28年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名: 横浜市能見台地域ケアプラザ

平成28年4月1日～平成29年3月31日
(単位: 千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護 第1号通所介護	生活支援体制 整備事業
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援				
収入	指定管理料等収入	13173	28356	151					5789
	介護保険収入				6029	24832	68727	6387	
	その他								
	介護予防ケアマネジメント費				6049	651	5054		
	受託収入					729			
	利用者負担金収入						16418	1689	
	利用料金収支の活用、雑収入他	998					2093		
	通所介護より振替	3990							
収入合計(A)	18161	28356	151	12078	26212	92292	8076	5789	
支出	人件費	10379	23904		836	21056	72491	6737	3814
	事務費	1284	2011		113	1738	7222	671	
	事業費	101	61	159		1117	9965	926	320
	管理費	4411	1172			426	6228	579	
	その他								
	施設使用料相当額						3990		
	委託料				7265				
	協力医、修繕費、 運営協議会経費	185	549						
消費税	830								
支出合計(B)	17190	27697	159	8214	24337	99896	8913	4134	
収支 (A) - (B)	971	659	-8	3864	1875	-7604	-837	1655	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

※ 指定管理料提案額をベースに作成してください。

平成28年度自主事業報告書

横浜市能見台地域ケアプラザ

高齢者支援事業

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
「あおぞら」サロン	高齢者の居場所づくりを目的とした、音楽サロン。音楽の演奏は、ケアプラザを利用している自主団体を始めとした有志のグループ・団体。	第2土 10回
「にぎやか亭」会食会	高齢者を対象とした会食会。料理は、「男の料理教室」に参加している、男性ボランティアが担当。 協力：能見台地区連合町内会、富岡西能見台地区民生委員児童委員協議会、のど越しの会	2回 6月・11月 第3土
男の料理教室 ボランティア講座	男性の地域活動（ボランティア活動）へのきっかけ作り。会食会での料理提供、献立・調理の実習等。	6回 第3土
パソコンクラブ	参加者同士による相互学習。生きがい・居場所づくり。パソコンやタブレットなどをもちより、それぞれ好きな事を行いながら時間を過ごす。	24回 第2・第4木
健康サポート教室 金沢スポーツセンター共催	金沢スポーツセンターと共催。 金沢スポーツセンターからの講師による、転倒骨折予防体操を実施。	22回 第2・4月
雀の学校	認知症予防を目的とした健康麻雀。 地域の方同士、顔見知りの関係へのきっかけ作り。	第2・第4水 23回
音読サロン	独居の方を主な対象として、健康維持・介護予防を目的にそれぞれ持ち寄った作品を音読（声に出して読む）する。	10回 第1火
うきうきクラブ	運動量に合わせて、自分にあった体操を選んで、無理なく運動することが出来る、介護予防体操を行う。	26回
終活セミナー 「自分らしく生きるために」	エンディングノートを通して、元気なうちから、医療、介護、相続、旅立ちなど様々なステージで自分自身が当事者となったことを想定、想いを整理する。	5回
ケアマネカフェ	ケアマネからの相談。	1回
介護者の集い	介護者を対象とした情報交換、ピア・カウンセリングの場。必要に応じ専門家を招き、介護者が必要な情報を提供。	9回 第4木

平成28年度自主事業報告書

横浜市能見台地域ケアプラザ

子育て支援事業

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
にこにこ広場	子育て中の親子の広場。(0歳～未就園児) 情報交換・ストレス軽減、交流の場づくり。ボランティアのにこにこ会による、手遊びや工作などを実施。	12回 第3金
のびのび広場	子育て中の親子広場(1.5歳～未就園児) 情報交換・ストレス軽減、交流の場づくり。ボランティアのにこにこ会による、手遊びや工作などを実施。	12回 第1金
おもちゃ病院	地域のボランティアの協力を得て、子どものおもちゃの修理を受け付けることで、モノを大切にすることを身につける場。	12回 第3金
親子モバイル	親子のふれあい支援、ボランティアとの多世代交流の場。地域活動交流事業のモバイル講座から、自主活動化した団体の協力を得て、親子で切り絵作成を行う。	1回/8月
団体との共催事業 歯ピカ教室	歯科医療、健康づくり係の職員による幼児、保護者の口腔指導。	1回/9月
離乳食講座	近隣の地域(地区民児協等)と共催し、離乳食幼児食講座を実施。子育て世代をターゲットに、地域活動とケアプラザの活動を紹介するきっかけとして開催。	1回/11月
とことこ共催 事業 ファーストブックの 選び方	身近な相談窓口のケアプラザの周知。司書による初めての絵本の選び方と、手遊び等から絵本の楽しさを伝える。	1回/8月
とことこ共催 事業 親子運動会	親子同士で競う障害物競争、ストラックアウト、ボウリングなどの競技にて遊び、スタンプラリー形式にして楽しみながら全ての競技に参加できるよう工夫、リラックスした雰囲気の中、地域の交流。	1回/10月
とことこ共催 事業 親子防災講座	区地域防災担当による防災講座。乳幼児を養育中の世帯ならではの災害に対する心構え、備蓄等について学ぶ。	1回/3月
区共催事業 3歳からの子育て 講座	心理カウンセラーの講師を招き、様々な場面における子どもとのコミュニケーションのとりかた、しつけのルールについて学んだ。又、地域の子育て事業に関わる方にもご参加いただき地域で子育てを支える。	5回

障害児者支援事業

事業名	目的・内容	実施時期・回数
フリーティード	中・高校生の障害児者の、余暇活動と友達づくりの場。ボランティアの協力を得てお菓子づくりなどの交流。	9回 原則第4土
サマーフレンド	小・中学生の障害児の余暇活動。一日ボランティアさんと楽しく交流。カップケーキ、うちわ作りを実施。	1回/8月
ハッピーポップ	フリーティードを卒業した年代を対象とした、障害者余暇支援。ボランティアとお菓子づくりなどの交流。	11回 原則第3土
スマイルカフェ	障害のある子どもを養育している親のためのサロン。すでに成人となった障害者の親がスタッフとして、コーヒーとパンを提供し、情報交換や交流を図る。	9回 第4木

平成28年度自主事業報告書

横浜市能見台地域ケアプラザ

一般・ボランティア支援・連絡会等

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
食品衛生講習会	配食サービスに関わるボランティア、地域の方を対象にした食品衛生講習会。金沢区生活衛生課協力。	1回/6月
趣味道楽	ひきこもりがちな高齢者が地域にでるきっかけ作り。自分の趣味について紹介し会話を楽しむ。	1回/8月
合同祭	能見台地区センターとの共催事業。ケアプラザの周知・理解と利用される方々の交流のきっかけ。	1回/10月
医療講座	エリア内の循環器呼吸器病センターの協力を得て、地域の皆さんの参考になる講座を実施。	1回
手打ちそば教室	そば打ちを通じた参加者同士の多世代交流。ケアプラザと係わりの少ない世代へのケアプラザ周知。	1回/1月
防災講座	地震による火災を想定した訓練と、講師を招いて開催する講話とAED演習や煙体験の実施。地区センターと共催。区、消防署協力。	2回 10月・2月
囲碁サロン	囲碁をきっかけとした、参加者同士の繋がりづくり。	23回 第1・第3土
よつば会	手芸が得意な方が集まって、布作品を作ることで地域に貢献する。得意を生かしたボランティア活動の場。	15回 第2・第4水
団体共催事業 3B体操	子どもから高齢者まで地域の方の健康づくり。日本3B体操協会の講師によるボール、ベル、ベルダーを使った体操。	1回
団体共催事業 富中OB合唱団 チャリティーコンサート	貸し館の登録団体との共催事業。東日本大震災で親を亡くした子ども達のためのチャリティーコンサート。貸し館利用登録団体の活躍・披露の場の提供。ケアプラザと関わりが薄い地域の方へのケアプラザの周知。	1回/12月
団体共催事業 富西能見保活 コンサート	貸し館の登録団体との共催事業。富岡西能見台地区の保健活動推進員の目標である、心の健康を目的としてクリスマスコンサートを実施。ケアプラザと関わりが薄い地域の方へのケアプラザの周知。	1回/10月
整理整頓	整理収納アドバイザーを招き、片付けの基本講座。収納のノウハウを学ぶ。様々な世代にケアプラザを周知し、参加者の交流も図る。	1回/8月
区社協共催事業 大学生ボラン ティア養成講座	関東学院大学、横浜市立大学の大学生へのボランティア活動の啓発を行った。新たな担い手の育成。海外でのボランティア事情も参考に活動者の話を紹介。	5回 6月・7月

平成28年度自主事業報告書

各種連絡④第4木

ボランティア 連絡会	貸し館登録団体のボランティアを対象とした連絡会。 貸し室利用のルール、登録更新手続きについて説明。グ ループ・団体同士の繋がりを支援。	1回/1月
支えあい連絡会	地域の方々の、支え合いの関係づくりに向けた連絡会。情 報交換、啓発のための講座等を実施。男性の地域活動への 参加をテーマに意見交換をした。	3回
子育て連絡会	能見台地域ケアプラザエリアの子育て広場等の関係者や主 任児童委員、ケアプラザの子育て広場のボランティア等と の情報・意見交換会。地域の子育て中の親子の情報共有・ 支援をする。	3回
施設・学校との 連絡会	ケアプラザと、近隣の福祉施設・学校との連絡会。 社会実習や福祉教育を円滑に進めるために顔の見える関係 づくりや情報共有を行う。 (富岡地域ケアプラザとの共催)	1回/6月

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名 (高齢者支援事業)	①主な対象	自 主 事 業 決 算 額					
	②延べ参加人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
「あおぞら」 サロン	高齢者	52,574	6,874	45,700	0	52,574	0
	516名						
	100円/茶・菓子						
「にぎやか亭」 会食会	高齢者	87,195	37,195	50,000	10,000	73,275	保険料
	136名						3,920
	500円						
男の料理教室 ボランティア講座	高齢者	61,601	22,601	39,000	30,000	31,601	0
	46名						
	食材費実費						
パソコンクラブ	高齢者	0	0	0	0	0	0
	157名						
	0円						
健康サポート教室 金沢スポーツセンター共催	高齢者	0	0	0	0	0	0
	320名						
	金沢スポーツセンターが徴収						
「雀の学校」	高齢者	0	0	0	0	0	0
	546名						
	0円						
音読サロン	高齢者	0	0	0	0	0	0
	64名						
	0円						
うきうきクラブ	高齢者	220,387	2,387	218,000	192,000	7,387	保険料
	604名						21,000
	1000円						
終活セミナー 「自分らしく生きるために」	高齢者	33,411	33,411	0	33,411	0	0
	145名						
	0円						
ケアマネカフェ	ケアマネ	515	515	0	0	515	0
	10名						
	0円						
介護者の集い	介護者	2,407	2,407	0	0	2,407	0
	46名						
	0円						
		458,090	105,390	352,700	265,411	167,759	24,920

事業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名 (子育て支援事業)	①主な対象	自主事業決算額					
	②延べ参加人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
にこにこ広場	子育て中の親子	18,735	6,735	12,000	0	11,115	保険料 7,620
	311名						
	100円/1回						
のびのび広場	子育て中の親子	13,114	4,714	8,400	0	5,494	保険料 7,620
	240名						
	100円/1回						
おもちゃ病院	子育て中の親子	0	0	0	0	0	0
	54名						
	0円						
親子モバイル	小学生と保護者	0	0	0	0	0	0
	23名						
	団体が徴収						
団体との共催事業 歯ピカ教室	子育て中の親子	0	0	0	0	0	0
	55名						
	0円						
離乳食講座	子育て中の親子	1,120	1,120	0	0	0	保険料 1,120
	52名						
	地域が徴収						
とことこ共催事業 ファーストブックの選び方	子育て中の親子	0	0	0	0	0	0
	58名						
	0円						
とことこ共催事業 親子運動会	子育て中の親子	1,120	0	0	0	0	保険料 1,120
	51名						
	0円						
とことこ共催事業 親子防災講座	子育て中の親子	0	0	0	0	0	0
	42名						
	0円						
区共催事業 3歳からの子育て講座	子育て中の親子	0	0	0	0	0	0
	133名						
	0円						
		34,089	12,569	20,400	0	16,609	17,480

事業ごとに別紙に記載してください。

事業名 (障害児者支援事業)	①主な対象	自主事業予算額					
	②延べ参加人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
フリーティード	中・高校生	29,628	17,428	12,200	0	23,328	保険料 6,300
	158名						
	2000円/年						
サマーフレンド	小・中学生	3,831	1,331	2,500	0	3,271	保険料 560
	13名						
	500円						
ハッピーポップ	青年	29,093	6,393	22,700	0	22,793	保険料 6,300
	109名						
	3000円/年						
スマイルカフェ	保護者	57,448	9,048	48,400	0	57,448	保険料 0
	211名						
	300円/回						
		120,000	34,200	85,800	0	106,840	13,160

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名 (一般・ボランティア支援事業)	①主な対象 ②延べ参加人数 ③一人当たり参加費	自主事業決算額					
		総経費	収入		支出		
			指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
食品衛生講習会	エリアのボランティア	0	0	0	0	0	0
	33名						
	0円						
趣味道楽	地域の方	0	0	0	0	0	0
	5名						
	0円						
合同祭	エリアのボランティア	0	0	0	0	0	0
	3500名						
	0円						
医療講座	地域の方	0	0	0	0	0	0
	24名						
	0円						
手打ちそば教室	一般	19,573	7,073	12,500	5,000	14,013	保険料 560
	18名						
	1000円						
防災講座	一般	0	0	0	0	0	0
	210名						
	0円						
囲碁サロン	一般	0	0	0	0	0	0
	128名						
	0円						
よつば会	手芸ボランティア	0	0	0	0	0	0
	97名						
	0円						
団体との共催事業 3B体操	地域の方	1,680	0	0	0	0	保険料 1680
	46名						
	0円						
団体との共催事業 富中OB合唱団 チャリティコンサート	地域の方	0	0	0	0	0	0
	85名						
	0円						
団体との共催事業 富西能見保活コンサート	地域の方	0	0	0	0	0	0
	80名						
	0円						
整理整頓	地域の方	0	0	0	0	0	0
	36名						
	0円						
区社協共催事業 大学生ボランティア養成講座	一般	0	0	0	0	0	0
	117名						
	0円						
		21,253	7,073	12,500	5,000	14,013	2,240

各種連絡会

事業名 (一般・ボランティア支援事業)	①主な対象 ②延べ参加人数 ③一人当たり参加費	自主事業予算額					
		総経費	収入		支出		
			指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
ボランティア連絡会	貸し館利用のボランティア団体	0	0	0	0	0	0
	41名						
	0円						
支えあい連絡会	エリアの福祉関係者	0	0	0	0	0	0
	46名						
	0円						
子育て連絡会	エリアのボランティア	0	0	0	0	0	0
	43名						
	0円						
施設と学校の連絡会	エリアの施設・学校	0	0	0	0	0	0
	24名						
	0円						
		0	0	0	0	0	0

事業ごとに別紙に記載してください。